

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、あなたや他の人々の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味


警告

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。


注意

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号


ポイント

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。


補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>


警告

- フェンスは隣地との境界を示す目的で設置するものです。転落防止を目的とした防護柵や歩行補助を目的とした手すりとしては使用しないでください。


注意

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。

<施工上のご注意>


注意

- 現場でブラケットや継手を組付け・締結する場合は、施工後に締結具合を必ず確認してください。締結不良は風による破損・飛散事故の原因になります。
- 柱と本体ジョイント部の間隔は200mm以内に施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が大幅に低下します。

<基礎工事について>


注意

- コンクリート(またはモルタル)には、塩分を含む砂(海砂)および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤(凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など)は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は、非塩素系や非アルカリ系混和剤をご使用ください。
- 指定基礎寸法は必ず守ってください。

■ 梱包明細表

1 柱セット

名称	略図	員数
柱		1

2 中間ブラケットセット

名称	略図	員数
中間ブラケット		1
ブラケット裏板		1
すきま隠し材		2
2-① φ5×10トラスタッピンネジ3種 D=8		1

3 上下ブラケットセット

名称	略図	員数
上ブラケット		1
下ブラケット		1
柱キャップ		1
ブラケット裏板		2
3-① φ5×16ナベタッピンネジ3種 D=9		1
3-② φ5×10トラスタッピンネジ3種 D=8		1
3-③ φ4×10トラスタッピンネジ3種 D=8		1
取付説明書	—	1

1. 基本寸法図

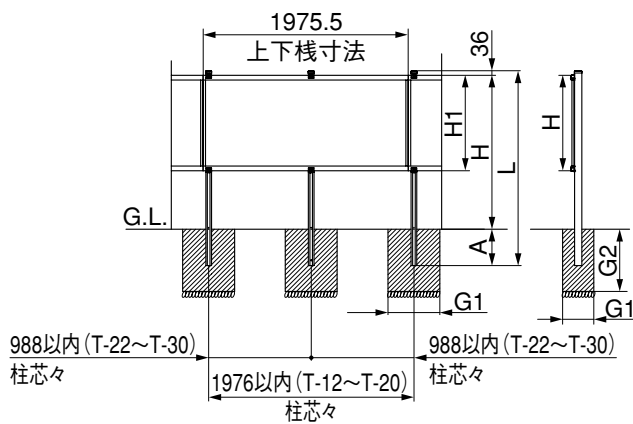


図 1-1 1段施工基本図

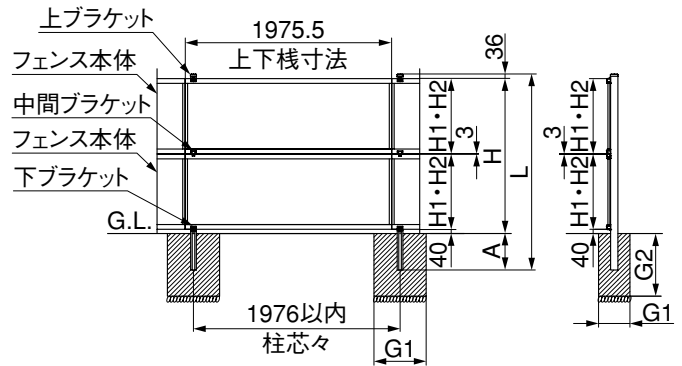


図 1-2 2段施工基本図

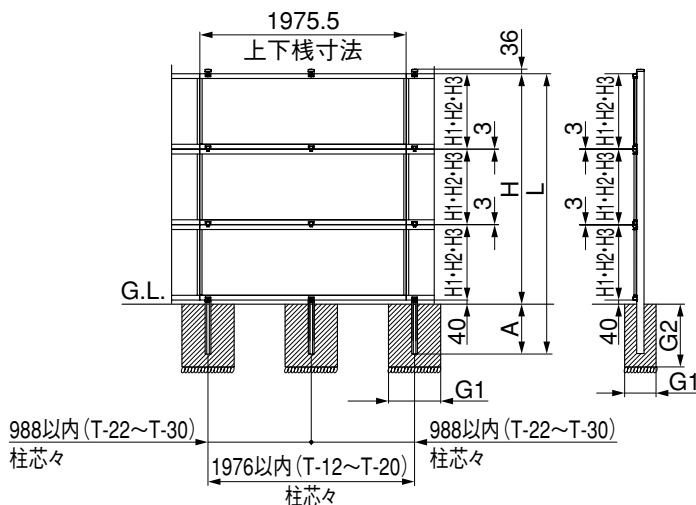


図 1-3 3段施工基本図

表1-1 1段施工基本寸法表

呼称	H	L	H1	A	G1	G2	G3
T-12	1123.0	1459.0	540 720 920	300	400	400	300
T-14	1303.0	1639.0		300	400	400	300
T-16	1503.0	1889.0		350	500	500	300
T-18	1683.0	2069.0		350	500	500	300
T-20	1883.0	2319.0		400	500	600	300
T-22	2046.0	2482.0		400	500	600	300
T-24	2206.0	2719.5		477	500	600	300
T-26	2406.0	3019.5		577	600	700	300
T-28	2606.0	3219.5		577	600	700	300
T-30	2806.0	3419.5		577	600	700	300

表1-2 2段施工基本寸法表

呼称	H	L	H1・H2	H1・H2	A (埋込寸法)	G1	G2	G3
T-12	1123.0	1459.0	540	540	300 (埋込基準線)	400	400	300
T-14	1303.0	1639.0	540	720	300 (埋込基準線)	400	400	300
T-16	1503.0	1889.0	540	920	350 (埋込基準線)	500	500	300
	1483.0	1889.0	720	720	370 (埋込基準線20mm下)			
T-18	1683.0	2069.0	720	920	350 (埋込基準線)	500	500	300
T-20	1883.0	2319.0	920	920	400 (埋込基準線)	500	500	300

表1-3 3段施工基本寸法表

呼称	H	L	H1・H2・H3	H1・H2・H3	H1・H2・H3	A (埋込寸法)	G1	G2	G3
T-18	1666.0	2069.0	540	540	540	367 (埋込基準線上17mm)	500	500	300
T-20	1846.0	2319.0	540	540	720	437 (埋込基準線上37mm)	600	600	300
T-22	2046.0	2482.0	540	540	920	400 (埋込基準線)	500	600	300
	2026.0	2482.0	540	720	720	420 (埋込基準線上20mm)			
T-24	2226.0	2719.5	540	720	920	457 (埋込基準線下20mm)	500	600	300
	2206.0	2719.5	720	720	720	477 (埋込基準線)			
T-26	2426.0	3019.5	540	920	920	557 (埋込基準線下20mm)	600	700	300
	2406.0	3019.5	720	720	920	577 (埋込基準線)			
T-28	2606.0	3219.5	720	920	920	577 (埋込基準線)	600	700	300
T-30	2806.0	3419.5	920	920	920	577 (埋込基準線)	600	700	300

注意

- 柱はブロックに施工しないでください。高尺のため強い風圧を受け、飛散事故の原因になります。
- 基礎が沈降したり傾いたりすることがあるため、必ず割栗石を敷いてください。

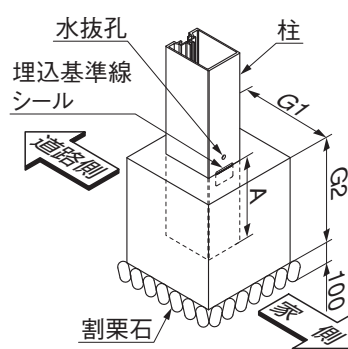


図1-4 独立基礎の場合

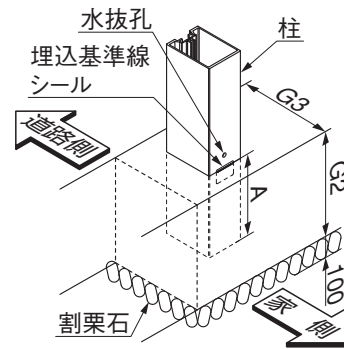


図1-5 連続基礎の場合

ポイント

- 埋込みは、埋込基準線上面を基準に上表を参照して行ってください。(表1-1, 表1-2, 表1-3参照)

2. フェンス本体・柱の取付け

※すきま隠し材は上段フェンスを設置する前に取付けてください。

2-1 下 Bracket・フェンス本体の取付け

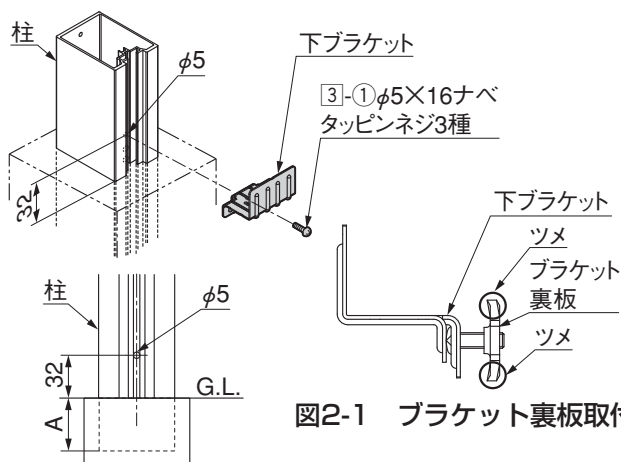


図2-1 ブラケット裏板取付図

- 1 中間ブラケットとブラケット裏板を③-①で仮止めしてください。

ポイント

- ブラケット裏板には表裏があります。角部にツメが立っている側を下 Bracket に向けてください。(図2-1参照)

- 2 図のA+32mmにφ5mmの孔加工を行なってください。

ポイント

- 必ずφ5mmの孔をあけてください。下 Bracket はこの孔をあけないと取付けられません。

- 3 下 Bracket を③-①でしっかりと固定してください。

- 4 フェンス本体を下 Bracket にのせてください。

2-2 中間 Bracket の取付け

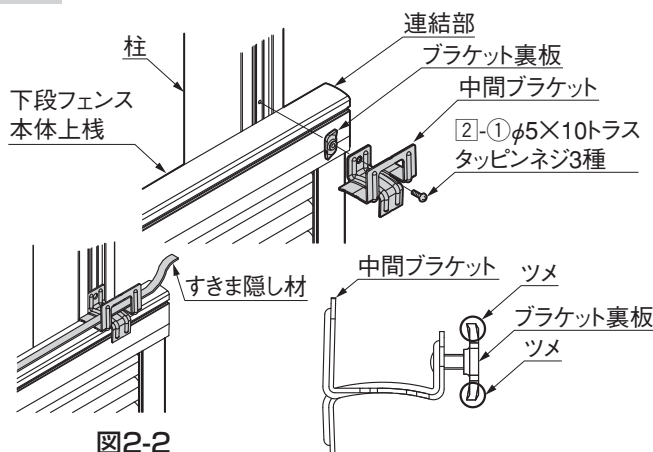


図2-2

すきま隠し材取付図 図2-3 ブラケット裏板取付図

- 1 中間 Bracket と Bracket 裏板を②-①で仮止めしてください。

ポイント

- Bracket 裏板には表裏があります。角部にツメが立っている側を中間 Bracket に向けてください。(図2-3参照)

- 2 ①の Bracket 裏板を柱の溝に入れ、中間 Bracket をフェンス本体上棧に上から軽く押しつけながら②-①でしっかりと固定してください。

- 3 フェンス本体上棧の上部にすきま隠し材を貼付けてください。(図2-2参照)

- 4 上段フェンスを中間 Bracket にのせてください。

2-3 上 Bracket の取付け

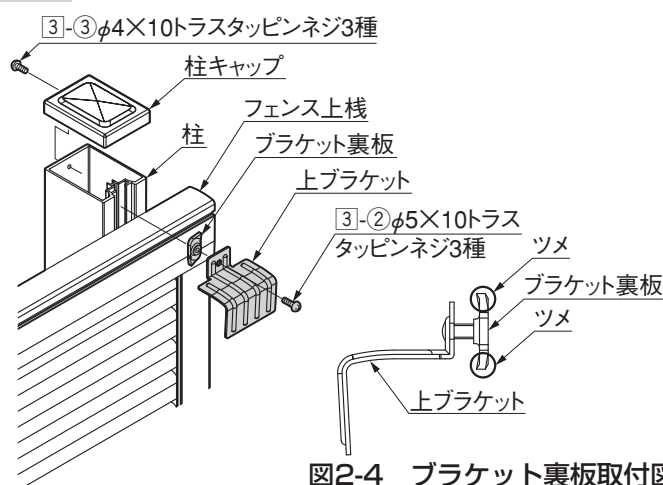


図2-4 ブラケット裏板取付図

- 1 上 Bracket と Bracket 裏板を③-②で仮止めしてください。

ポイント

- Bracket 裏板には表裏があります。角部にツメが立っている側を上 Bracket に向けてください。(図2-4参照)

- 2 ①の Bracket 裏板を柱の溝に入れ、上 Bracket をフェンス本体上棧に上から軽く押しつけながら③-②でしっかりと固定してください。

- 3 柱キャップを柱にかぶせ、③-③で固定してください。

取説コード

C327

QBK603761B
200502A_1006
201210C_1042